

技術移転に係わる目利き人材育成研修会(鳥取開催) ～“未利用地域資源の有効利用”のビジネスモデルを策定する～(H23.2/4)

独立行政法人 科学技術振興機構(JST)では、大学・公的研究機関等の知財本部、TLO 等で技術移転業務を行う方々、地域自治体、財団、民間企業で産学連携に従事する方々を対象に、大学等の研究成果の社会還元(技術移転)を効率的に進めるために必要とされる知識・スキル習得及び人的ネットワーク構築支援を目的に「目利き人材育成研修」を平成 14 年度から実施しています。

今回は平成 22 年度の地域コースとして、鳥取大学産学・地域連携推進機構との共催により、鳥取市・県民ふれあい会館で実施され、約 20 名の参加者が受講しました。

主催者挨拶(JST 鈴木調査役)、共催者挨拶(鳥取大学佐々木教授)及び運営機関である財団法人 全日本地域研究交流協会(JAREC)による事務局説明(JAREC 馬場主任研究員)から始まり、理論より実務に重きを置いた実践的な研修企画であること、グループ討議など少人数での議論や意見交換による情報交換の場を設ける目的があること、地域の大学や自治体の要望と産学連携の進捗度合いに応じて設定されるプログラムであること、等々について説明が行われました。

午前中の講義では、株式会社イノベーションマネジメントコンサルティング 経営コンサルタント 橋詰徹氏を講師に迎え、「ビジネスモデルの考え方」と題し、ビジネスモデルを検討していくうえでの基本となる 1. 誰に価値を提供するか 2. どのような価値を提供するのか 3. その価値をどのように提供するか に関して学び、事業開始にあたり必要な経営資源をどのような動機づけのもとに集め、提供する価値に対してどのような収益モデルで対価を得るか、というビジネスモデルの勘所についてのノウハウを、四国地方のある自治体で氏が実際に手掛けたカタログ販売事業を実例モデルとして学びました。



(講師:橋詰氏)

午後の講義では、JST イノベーション推進本部産学官イノベーション創出拠点推進部 齋藤部長により、「地域産学官共同研究拠点整備事業」を取り上げ JST が展開している拠点施設を活用した新たなネットワークづくりが概説され、次に、鳥取県の技術概要紹介として、鳥取大学 産学・地域連携推進機構 産学官連携プロデューサー 加藤優氏より、「規格外二十世紀梨の有効活用法ー機能性評価および製品の研究開発紹介ー」と題し、鳥取県の特産品である二十世紀梨について、規格外梨廃棄の課題、高付加価値化としての梨酢の開発、梨の更なる機能性研究等、グループ討議を行うための議題提供が行われました。

引き続き、2つのグループに分かれて約3時間のグループ実習が行われました。第1グループは橋詰氏、第2グループは JST イノベーション推進本部 産学連携アドバイザーの藤川昇氏をそれぞれ講師とし、「“二十世紀梨の有効活用”をテーマとしたビジネスモデルの策定」と題して、橋本氏の講義内容に基づいたビジネスモデルシートを作成する形で実践的なワークが行われました。少人数ながら産学官いずれの機関からも参加者があり、様々な見地から実情に基づいた生の意見が提供されました。詳細な討議内容の流れは以下の通りです。テーマ概要の決定、SWOT(strong,weak,opportunity,threat)分析の実施、成功要因を複数提示、製品コンセプトの明確化、用途・市場・顧客の重点分野の想定、3年後の事業規模・流通過程・顧客満足度・ビジネス形態等の目標設定等。

最後に各グループの討議結果を発表し質疑応答と講師によるコメントにて会は終了しました。先進事例やビジネス手法を学び、討議を通じて地域の産学連携活動における“顔の見えるリーダー”を参加者間で共有し、研修以降も連携・実践態勢を強化することへつながる、有意義な研修となりました。